

令和4年度秋田県協議会重点取組事項PDCAシート

○農産物輸送の労働時間等の改善

○重点取組事項概要

秋田県内の首都圏向け農産物輸送について、2024年問題に対応したトラックドライバーの長時間労働の改善に繋がるように、2021年度に実施した「首都圏向け青果物輸送に係る効率化実証事業」で明らかとなった課題解決を目的として、2022年度においても農産物輸送の実証実験を実施する。

【2021年度実証実験で明らかとなった課題】

1. ドライバーの労働環境改善(幹線便の運行台数の見直し、市場での待機時間の削減、ハブ拠点における作業時間の削減等)
2. 首都圏向け幹線便の積載率向上 等

【2022年度取組事項】

集荷・幹線の分離にとまらず、生産者・他県・首都圏市場とも連携し、将来にわたって秋田県の実証実験が持続可能な状態に保つための課題解決を目的とする。

○KPI

【KPI】

1. ドライバー拘束時間削減
2. ドライバーの付加価値(時間あたり売上)向上
3. 輸送コスト削減

○重点取組事項の取組状況

2022年9月4日から9月10日までの1週間、秋田県から首都圏各市場間のトラックの青果物輸送について実証実験を実施。

【実施内容】

1. 生産者の取組み(生産者出荷量の事前把握)
2. 各JA内での出荷物集約
3. 隣県を含めた出荷体制の連携
4. 首都圏市場への取組み

【KPI達成状況】

1. ドライバーの拘束時間削減
・実証実験で明らかになった課題に対して各施策を実施することで、**幹線便ドライバーの拘束時間は、1運行当たり3時間10分(20.7%)の削減が見込める。**
・**集荷便及び幹線便ドライバーの総労働時間は、1週間234.8時間(19.7%)の削減が見込める。**
2. ドライバーの付加価値(時間あたり売上)向上
・労働時間の削減により、**幹線便ドライバーの生み出す付加価値(時間あたり売上)は、現状を100として、実証実験により明らかになった課題を解決した場合124.5となり、幹線便ドライバー時間当たりの売上の増加が見込める。**
3. 輸送コスト削減
・**短期施策の実施により、試算上は現行費用に比べて約6%の削減が見込める。**

○課題及び今後の対応の方向性

【実証実験で見えてきた課題】

2024年問題に直結するドライバーの拘束時間の長さについて、下記事項が課題となっており、改善が急務となっている。

- ・幹線ドライバーの集荷業務の撤廃
- ・幹線ドライバーのパレタイズ作業の撤廃
- ・市場待機の短縮
- ・積み合わせの最適化等による積載率の向上 等

【今後の対応の方向性】

上記課題の対応策として、短期施策と中長期施策に分けて検討する必要があるが、2024年問題の前に、効率化された青果物流の「通年化」実現に向け、ドライバー拘束時間削減を中心とした下記短期施策を重点施策として進めることで、対応を協議していく。

- ・集荷幹線の分離
- ・パレタイズ作業主体の見直し
- ・市場予約システム導入・利用徹底
- ・幹線便の適正化(削減) 等